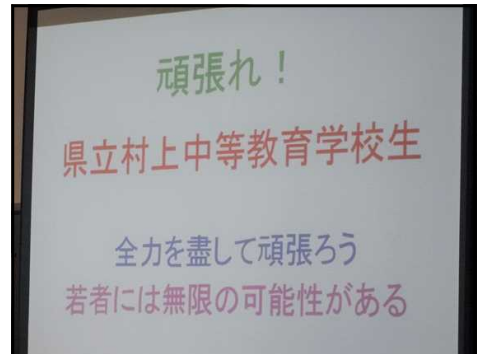




令和2年9月28日発行 中等新報第74号  
新潟県立村上中等教育学校長 吉井 裕也

## 医療系進路講話 ～医師に求められる資質とは？～



医師に求められる基本的な資質・能力について、豊富な資料に基づき熱心に語ってくださった荒川先生

9月18日（金）、医師の仕事に関心のある生徒対象に進路講話を実施しました。講師は、新潟大学名誉教授の荒川正昭先生です。参加した生徒は、3年生18人、4年生5人、5年生6人の計29人でした。約60分の講話でしたが、100枚近くのスライドを使って、医師としての心構え、医療の本質、医学の歴史、大学教育の変遷等、多岐にわたって興味深いお話を伺うことができました。スライドでは、良寛、本居宣長、新渡戸稲造、ヒポクラテスなど、古今の偉人のことばが紹介されていましたが、その中から、いくつか印象に残ったものを紹介します。

まず、1849年カナダ生まれの医学者、ウィリアム・オスラーのことば。「勉学の習慣を体の一部として身に付ける。外からと内からの知識の釣り合いをとる。規律ある生活習慣を身に付ける。時間を適切に配分し、集中力を養う。明日のことを思い煩うな、今日を精一杯生きる。医学以外のことに関心を持ち、教養を高めよ。心から慕える偉人を選び、その書を系統的に読め。」

次に、ノートルダム清心学園の理事長だった渡辺和子さんのことば。アメリカの小説家レイモンド・チャンドラーの名言「**タフでなければ生きていけない。優しくなければ生きる資格がない**」を引用しながら、「私は、人間の魅力というものは、男女を問わず、このように相反するかのように思われる二つの極の間であって、バランスを保っている姿にあると考えている。魅力ある学生、それはけっして、きれいに化粧し、着飾った人でなく、タフでありながら、優しさを兼ね備えた姿である。竹のように、しなっても折れない人、はね返す力を持った人と言ってもよい。本当の優しさとは、自己の確立があって初めて可能な特性なのだ。自己中心的なものではない、責任に裏打ちされた、自分自身との闘いを経た優しさのみが、真の優しさなのである。」



また、曾野綾子さんのことば。「人生は能力ではなく、気力で決まる。運命を受け入れ、そこからそれぞれの道を歩き出す気力があるかないかの違いなのだ。成功のたった一つの鍵は「忍耐」である。相手を大切に思うなら、その人の行動にじっと耐えて、決して見捨てないことだ。」

このようにみえてくると、医師にまず求められるのは、良識を持ち、自分にきびしく、他者を愛する心を持った、人としてまっとうなあり方なのだと言えるかもしれません。もちろん、専門的な知識や高度な技術を身に付けていなければ、その責務を果たすことはできません。荒川先生は、「プロフェッショナリズム」、「医学知識と問題対応能力」、「コミュニケーション能力」、「科学的探究心」、「生涯にわたって学ぶ姿勢」等もまた、なくてはならない資質・能力であるとおっしゃっていました。



新潟県立村上中等教育学校

〒958-0031 村上市学校町6番8号 TEL.0254-52-5101 FAX.0254-53-6773  
HPアドレス <http://www.murakami-ss.nein.ed.jp>